

National Institute of Technology, Numazu College

2014 沼津高専 概要

Outline 2014

www.numazu-ct.ac.jp

沼津高専 概要

●校歌	1
●沼津工業高等専門学校 概要	2
●教育理念	2
●教育目的	2
●教育方針	2
●学習・教育目標	2
●養成すべき人材像	2
●学生受入方針	2
●教養科・各専門学科の教育目的	3
●教養科	3
●機械工学科	3
●電気電子工学科	3
●電子制御工学科	3
●制御情報工学科	3
●物質工学科	3
●沿革	4
●組織	5
●組織図	5
●役職員	5
●現員	5
●高等専門学校（高専）とは	5
●高等専門学校（高専）の位置付け	5
●特色ある技術者教育	6
●学際教育・専攻科コース制概要	6
●専攻科	7
●専攻科の学習・教育目標	8
●富士のくに未来創成	8
●外部機関による評価	9
●教養科	10
●機械工学科	11
●電気電子工学科	12
●電子制御工学科	13
●制御情報工学科	14
●物質工学科	15
●地域共同テクノセンター	16
●教育研究支援センター	17
●総合情報センター	18
●図書館	19
●学生寮	20
●学生支援ゾーン・尚友会館（福利施設）	21
●学生データ	22
●定員及び現員	22
●入学志願者状況	22
●出身地別学生数	22
●静岡県内都市別学生数	22
●外国人留学生	22
●進路	23
●卒業生の編入学状況	23
●平成25年度卒業生の進路状況・就職先一覧	23
●進路（専攻科）	23
●平成25年度修了生の進路状況・就職先一覧	24
●修了生の進学状況	24
●事業費概要	25
●建物配置図	25

校歌

作詞 市川 良輔
作曲 渡辺 浦人

東海に聳えて名あり
ゆるぎなき富士の高嶺よ
仰ぎ見る沼津が丘に
わが心直くゆたけし
日本の工業が呼ぶ
若き日の五つ年今ぞ

新たなる使命に満ちて
科学するみち一すじよ
学び成す礎とわに
わが腕さやけくつよし
日本の工業が待つ
若き日の五つ年今ぞ

天地のただふところに
伸びいそぐ「小林」が樹よ
春秋のいそしみふかく
わが希望さだかに遂げむ
日本の工業興す
若き日の五つ年今ぞ





●教育理念

「人柄のよい優秀な技術者となって 世の期待にこたえよ」

●教育目的

豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業に寄与すること。

●教育方針

- 一、低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
- 一、コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
- 一、実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
- 一、教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

●学習・教育目標

学生が以下の能力、態度、姿勢を身に付けることを目標とする。

- 一、技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
- 一、自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
- 一、工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
- 一、豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
- 一、実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

●養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力ある実践的技術者

●学生受入方針（アドミッションポリシー）

- 一、科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を身につけている人
- 一、自ら学習し、科学技術の知識を用いて社会に貢献する意思のある人
- 一、科学技術の社会的役割と技術者の責任について考えることができる人
- 一、他人の言うことをよく聞き、自分の意見をはっきりと言える人



- 所在地 静岡県沼津市大岡3600
- 設置 昭和37年3月29日
- 本科 修業年限 5年
 - 機械工学科
 - 電気電子工学科
 - 電子制御工学科
 - 制御情報工学科
 - 物質工学科
- 専攻科 修業年限 2年
 - 総合システム工学専攻
 - 環境エネルギー工学コース
 - 新機能材料工学コース
 - 医療福祉機器開発工学コース
- 学生定員 1,048名
- 施設
 - 敷地 89,599㎡
 - 建物 35,538㎡

●教養科・各専門学科の教育目的

●教養科

専門学科の教科を学ぶに必要な基礎学力を身に付けさせ、健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を育成すること。

●機械工学科

機械の開発・設計・製造の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●電気電子工学科

電気エネルギー・エレクトロニクス・情報通信の開発・設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●電子制御工学科

電気・機械・情報工学のシステム統合技術の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●制御情報工学科

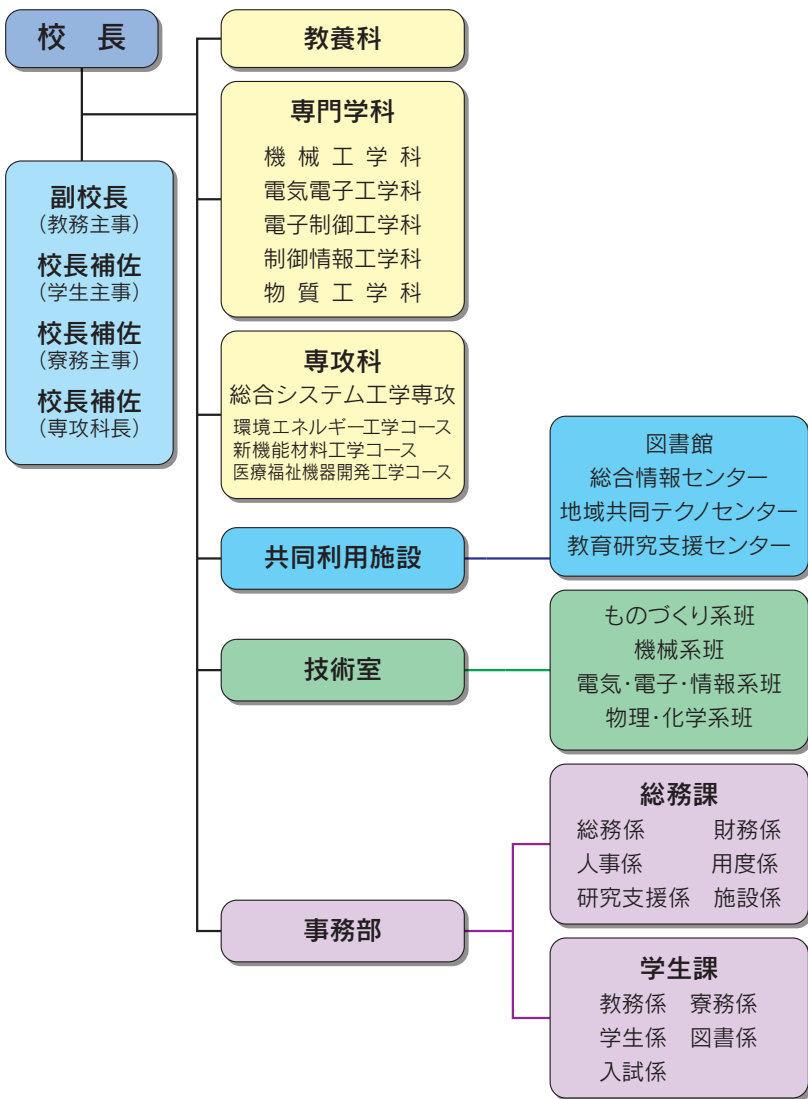
コンピュータを応用したシステムの設計・製造・運用の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

●物質工学科

化学工業・ファインケミカル・食品工業等の生産技術や研究開発の分野において、自ら考え行動できる実践的な技術者を養成すること。

- 昭和37. 3. 29 沼津工業高等専門学校（機械工学科（2学級）及び電気工学科（1学級））設置
4. 20 開校式並びに昭和37年度入学式挙行
- 昭和41. 4. 5 工業化学科設置
- 昭和42. 3. 20 第1回卒業式挙行
- 昭和45. 4. 1 男子低学年（1、2年）全寮制開始
- 昭和47.11. 1 創立10周年記念式典挙行
- 昭和51. 4. 1 第4学年への編入学開始
5. 8 情報処理教育センター設置
- 昭和57.11. 1 創立20周年記念式典挙行
- 昭和60. 4. 1 女子低学年（1、2年）全寮制開始
- 昭和61. 4. 1 電子制御工学科設置
- 平成元. 4. 1 工業化学科が物質工学科に改組
- 平成 4. 4. 1 機械工学科（2学級）が機械工学科（1学級）と制御情報工学科（1学級）に改組
11.11 創立30周年記念式典挙行
- 平成 8. 4. 1 専攻科（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）設置
- 平成11. 4. 1 電気工学科が電気電子工学科に改組
12. 1 新講義棟竣工
- 平成16. 3. 3 地域共同テクノセンター設置
- 平成16. 4. 1 独立行政法人国立高等専門学校機構沼津工業高等専門学校へ移行
- 平成16. 5.12 日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定
- 平成17. 4. 1 情報処理教育センターが総合情報センターに改組
- 平成19. 4. 1 第4学年編入学を第3学年または第4学年編入学に改正
- 平成21.10.21 静岡大学と教育研究交流に関する協定締結
12. 1 東京工業大学と教育研究交流に関する協定締結
- 平成23. 6. 29 静岡医療センターと連携に関する協定締結
7. 1 豊橋技術科学大学と教育研究交流に関する協定締結
11.21 沼津市と連携協力に関する協定締結
- 平成24. 4. 1 混合学級と学際教育の開始
11. 1 創立50周年記念式典挙行
- 平成25. 2. 4 静岡県と連携に関する協定締結
- 平成26. 3. 31 日本大学国際関係学部と教育研究交流に関する協定締結
4. 1 専攻科（3専攻）を総合システム工学専攻（3コース）に改編

●組織図



●役職員

■役職	■氏名
校長	柳下 福藏
副校長(教務主事)	蓮實 文彦
校長補佐(学生主事)	大久保清美
校長補佐(寮務主事)	遠藤 良樹
校長補佐(専攻科長)	押川 達夫
教養科長	勝山 智男
機械工学科長	村松 久巳
電気電子工学科長	佐藤 憲史
電子制御工学科長	遠山 和之
制御情報工学科長	藤尾三紀夫
物質工学科長	後藤 孝信
図書館長	中園 孝信
総合情報センター長	望月 孔二
地域共同テクノセンター長	芳野 恭士
教育研究支援センター長	小林 隆志
技術室長	小林 隆志
事務部長	大山 正人
総務課長	露木 弘充
学生課長	入吉 修

平成26年4月1日現在

●現員

■区分	■現員
●教育職員	81
校長	1
教授	32
准教授〔内、特任准教授 1〕	33
講師	9
助教	6
●技術系職員(技術室)	13
●事務系職員	33
合計	127

平成26年4月1日現在

●高等専門学校(高専)とは

高等専門学校は、我が国産業の発展と科学技術教育のより一層の振興を図るために創設された高等教育機関です。

高等専門学校は深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、豊かな教養と専門の工学とを身につけた幅広い場で活躍する多様な実践的・創造的技術者の養成を使命としており、中学校卒業を入学資格として、5年制の一貫教育を行っています。

高等専門学校は、科学技術の基礎知識の基に実践的な技術の修得を重視し、ものづくり技術力の継承・発展を担いイノベーション創出に貢献する技術者を育成することを旨としており、また、学生と教員の人的接触に重きを置いた特色ある教育を行っています。

専攻科は、工業高等専門学校等の教育における成果を踏まえ、研究指導を通じた工学に関する深い専門性を基に、創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するとともに、産業社会との学術的な協力のもとに教育研究を行い、もって地域社会の産業と文化の進展に寄与することを目的としています。

なお、日本の学校制度の中での高等専門学校の位置付けは下図のとおりです。

●高等専門学校(高専)の位置付け



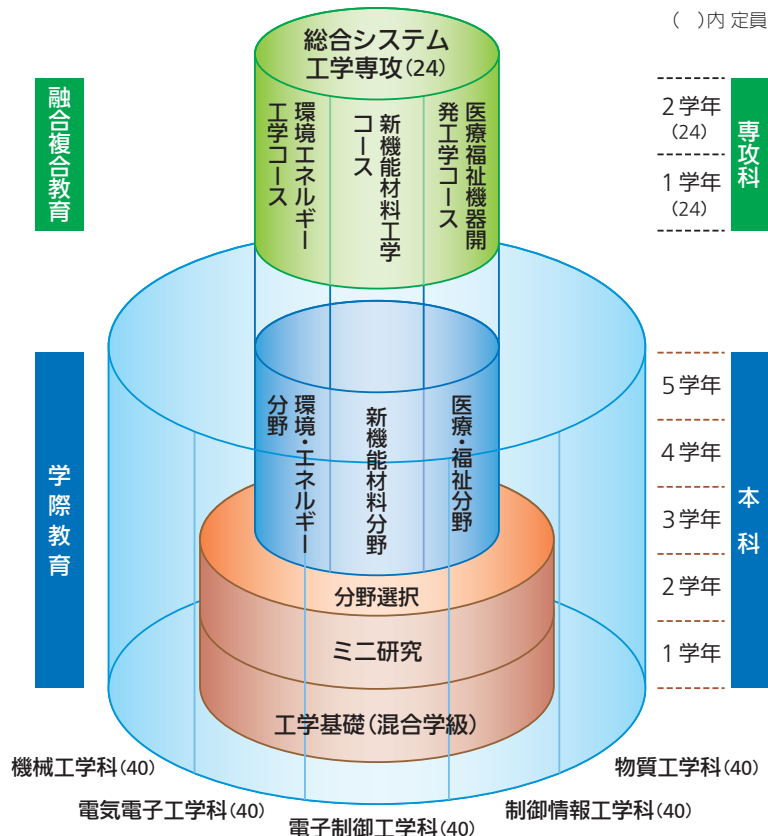
特色ある技術者教育

Features of Engineering Education

学際教育・専攻科コース制概要

平成24年度入学生より、環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉分野を重視する近年の産業構造の変化に対応できるエンジニアを育成するために、1学年を混合学級として専門5学科の実験実習を全て体験できるようにし、3学年以上の高学年においては所属学科の専門基盤科目と同時に学際3分野（環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉）の学際科目を選択して受講できるように改定しました。

専攻科は平成26年度入学生より、総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）の1専攻3コースに改編し、融合複合分野の教育を開始しました。



● 1 学年 混合学級

1学年は学科の枠を超えた「混合学級」編成として、全学生が技術者として共通に必要な知識である有効数学や計測誤差および安全教育を座学で学習する「工学基礎Ⅰ」および専門5学科の実験実習を「工学基礎Ⅱ」として全て体験します。

● 2 学年 ミニ研究

2学年からは専門学科の学級編成になりますが、全教員が2年生全員を2～3名ずつ受けもって研究課題を指導する「ミニ研究」を行い、その成果を全教職員、保護者に対して発表します。その目的は学生自らが課題に対する解決方法を提案するなどの創造性を育成する機会を体験することです。

● 3～5 学年 専門基盤科目と学際科目

3～5学年は所属学科の専門基盤科目と同時に学際3分野（環境・エネルギー、新機能材料、医療・福祉）から1分野を選択して学際科目を受講します。



1年 工学基礎Ⅱ



2年「ミニ研究」発表会

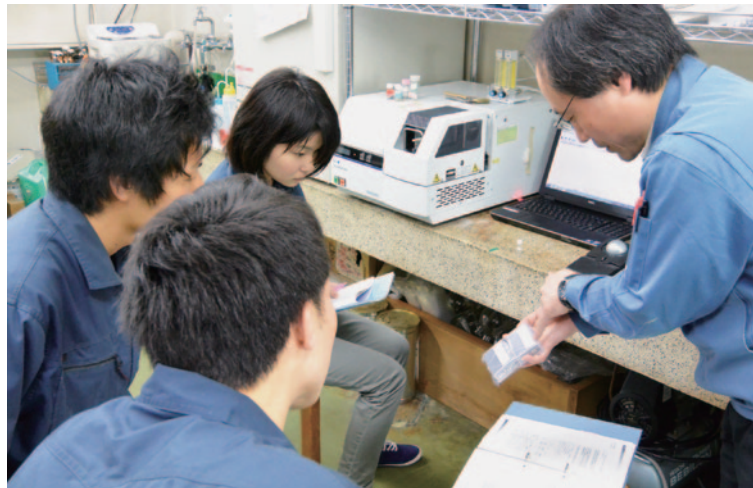
専攻科

● 技術の高度化と産業構造の変化に対応できる技術者育成を目指して

1962年、実践的技術者の養成を目的として、中学校卒業を入学資格とする5年制の高等教育機関「高等専門学校（高専）」が誕生し、以来50年以上にわたって、産業界を中心に高く評価されてきました。その後、情報技術の普及にともない専門技術者に要求される知識・技術水準は高度化し、沼津高専は1996年に2年制の専攻科3専攻（機械・電気システム工学専攻、制御・情報システム工学専攻、応用物質工学専攻）を設置しました。

2014年からは、近年の産業構造の変化に対応するために、専攻科を本科の学際教育を深化する総合システム工学専攻（環境エネルギー工学コース、新機能材料工学コース、医療福祉機器開発工学コース）の1専攻3コースに改編して融合複合・新領域分野の実践的・創造的技術者の教育を開始しました。

専攻科の課程を修了し、大学評価・学位授与機構の定めた条件を満たした者は「学士（工学）」の学位が授与され、さらに研究を深めようとする学生は大学院に進学することができます。



専攻科実験（新機能材料コース実験）

● 総合システム工学専攻 3コースの教育目標

● 環境エネルギー工学コース

機械工学、電気電子工学、応用物質工学、情報工学などの工学分野を融合複合した、環境と新エネルギー、エネルギー変換工学及びエネルギー応用工学を中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

● 新機能材料工学コース

機械工学、電気電子工学及び応用物質工学分野を支える基盤材料として、鉄鋼・非鉄・セラミックス材料、生物材料などを包括して学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。

● 医療福祉機器開発工学コース

機械工学、電気電子工学、情報工学などの工学分野並びに解剖生理学、生体医用工学など医工学分野を融合複合した、医用機器工学、福祉機器工学などを中心に深く学修し、総合システム工学の教育プログラムが目標とする能力を備えた技術者を育成する。



専攻科研究

専攻科の特色

4ヶ月間の長期インターンシップ

1年後期の4ヶ月間(10月、11月、12月、1月)を企業や大学等において企業技術者、大学研究者から直接指導を受ける。

● 専攻科は、以下の要件を満たす人を受け入れます。

1. 広い視野と深い専門性を身に付けた技術者として、将来、社会の発展及び公衆の福祉に寄与する意欲を持った者
2. 数学、自然科学及び英語に関し、工学教育を受けるために必要な学力を有する者
3. 基礎的な工学の方法について、一定の指導と訓練を受け、一定の期間にわたって実践した経験を有する者

●機関別認証評価

学校教育法の改正により、平成16年度から7年以内ごとに、大学（短期大学を含む）及び高等専門学校は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による機関別認証評価を受けることが法的に義務付けられました。

国立高等専門学校機構は、文部科学大臣の認証を受けている評価機関である独立行政法人大学評価・学位授与機構による機関別認証評価を受審することとしており、本校は、平成17年度に第1回目、平成23年度に第2回目の機関別認証評価を受審し、その評価結果が平成24年3月29日に大学評価・学位授与機構から公表され、「沼津工業高等専門学校は、高等専門学校設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める高等専門学校評価基準を満たしている」と評価されています。

〈平成23年度機関別認証評価結果の概要〉

- ・基準1～基準11の評価項目に対して主な優れた点が7項目
- ・選択的評価事項Aに対して優れた点が1項目
- ・選択的評価事項Bに対して優れた点が2項目が明記されており、特に選択的評価事項Bに対しては「目的の達成状況が非常に優れている」との評価を受けている。

※詳細は本校ホームページ参照



独立行政法人大学評価・学位授与機構
認定証

●JABEE

JABEEとはJapan Accreditation Board for Engineering Educationの頭文字をとったものであり、日本技術者教育認定機構のことです。

同機構は技術系学協会と密接に連携しながら技術者教育プログラムの審査・認定を行う非政府団体で、大学などの高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを公平に評価し、認定する事業を行っています。

本校では、本科4年生から専攻科2年生までの4年間について、単一の技術者教育プログラムである「総合システム工学プログラム」を構成しており、2004年から日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けています。

本校の技術者教育が4年制大学の教育レベルと同等であることが保証されるとともに、プログラム修了生は、国際的に通用する基本的な学力・技術力を有する者として、社会で受け入れられることとなります。具体的には修習技術者と称することができ、技術者としての重要な国家資格である技術士の第一次試験が免除されます。



沼津工業高等専門学校 専攻科
総合システム工学プログラム



日本技術者教育認定機構
認定証



教養科 (一般科目) LIBERAL ARTS

● 教養科の概要

沼津高専の本科には5つの学科がありますが、いずれの学科の学生も共通に学ぶ科目があります。これらを一般科目といいます。主に一般科目を担当している教員の組織が教養科です。

一般科目には2つの目的があります。ひとつは所属する学科の専門科目を学ぶための基礎学力を身につけること、もうひとつは健全な技術者に求められる幅広い教養と人間性を養うことです。教育内容は、高等学校及び大学の教養課程において学習する範囲の教科の内容を含んでいます。

沼津高専では、高度な専門知識を有する教員によって確かな教養教育を低学年から展開することによって、広範な知識・技術及び的確な判断力・実行力を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備えた技術者を養成しています。

● 主な授業科目

国語、哲学、歴史、地理、数学、物理、化学、生物、保健体育、英語、ドイツ語、美術、音楽

● 教 員

■職名	■学位	■氏名	■専門分野
教 授	博士(理学)	勝山 智男	統計物理学・生物物理学
教 授	文学修士	大久保清美	ドイツ地域文化研究
教 授	工学修士	西垣 誠一	実関数論
教 授	理学修士	遠藤 良樹	幾何学的測度論
教 授	体育学修士	佐藤 誠	スポーツ運動学・体操競技
教 授	博士(工学)	小林 美学	無機化学
教 授	修士(文学)	鈴木 久博	ユダヤ系アメリカ文学
教 授	博士(理学)	住吉 光介	宇宙物理学・原子核物理学
特任准教授	修士(政策学)	中園 孝信	近代文学・キャリア教育
准教授		成田 智子	アメリカ文学・英語教授法
准教授		渡邊志保美	運動生理学・体育実技
准教授	修士(理学)	佐藤 志保	微分幾何学
准教授	修士(教育学)	村上 真理	英語教育法
准教授	博士(文学)	小村 宏史	上代文学
准教授	修士(文学)	佐藤 崇徳	地理学
准教授	博士(理学)	駒 佳明	素粒子物理学
准教授	博士(文学)	平田陽一郎	中国史
准教授	博士(理学)	鈴木 正樹	微分方程式論・可積分系
准教授	博士(理学)	澤井 洋	幾何学
准教授	修士(文学)	藤井 数馬	認知言語学・英語教育
准教授	博士(理学)	松澤 寛	非線形偏微分方程式論
講 師		笹原 正和	(寮監)
講 師	博士(文学)	小柳 敦史	近代ドイツ宗教思想史
助 教	博士(理学)	黒澤 恵光	代数学



1年 化学の授業



1年 英語の授業



5年 哲学の授業

● 機械工学科の概要

機械工学科は、機械や装置ならびにこれらに関連するシステムを設計・製造する能力をもった“機械技術者”を養成することを目標としています。

第2～3学年での機械工作実習により製品を作り出す“ものづくり”の基本となる金属加工技術を学び、また第2～5学年にわたる機械設計製図によってアイデアを現実のものにするための設計・製図技術を修得します。機械技術者にとって必須の材料力学、熱力学、水力学などの力学を中心とした専門科目は、低学年での工学基礎科目との密接な連携の上に授業が行われています。これらの専門科目については、機械工学実験による実技と経験を通じて、その内容を深く理解できるものとしてあります。

また、情報処理技術・コンピュータ技術についても、専門科目と連携させて学びます。第5学年で行われる卒業研究では、知識や技術の活用だけでなく、さまざまな工学問題を解決するために必要となる総合的な能力を養っています。



3年 機械工作実習（数値制御工作機械の実習）



5年 機械設計製図（CAD演習）

● 主な授業科目

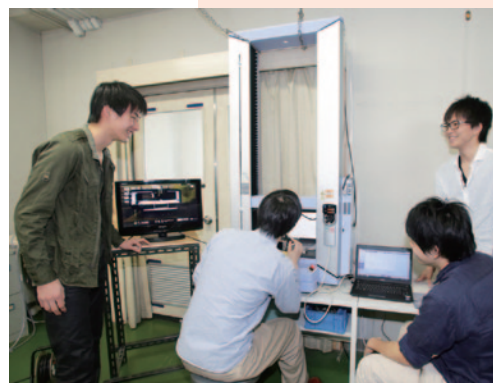
材料力学、熱力学、水力学、金属材料学、機械工作法、機構学、自動制御、機械設計法、機械設計製図、機械工学実験、機械工作実習、卒業研究

● 教 員

職名	学位	氏名	専門分野
教授	博士(工学)	西田 友久	材料力学
教授	博士(工学)	小林 隆志	設計工学・圧力技術 技術士(機械部門)
教授	工学博士	村松 久巳	流体工学・音響工学
准教授		宮内 太積	機械力学
准教授	工学修士	井上 聡	金属材料 技術士(金属部門)
准教授	博士(工学)	三谷祐一朗	制御工学
准教授	修士(工学)	永禮 哲生	切削工学
准教授	博士(工学)	鈴木 尚人	医用生体工学・福祉工学
准教授	博士(工学)	新富 雅仁	燃焼工学
准教授	修士(工学)	山中 仁	設計工学・機構学 技術士(機械部門)
講師	博士(工学)	松田 伸也	材料力学・破壊力学



5年 機械工学実験（油空圧工学基礎実験）



5年 卒業研究（PCの液晶ディスプレイを利用した光弾性実験）



●電気電子工学科の概要

地球環境に配慮したクリーンエネルギーの確保やCO2を削減するための新技術、クラウドコンピューティングによる情報ネットワーク社会の構築には、電気電子工学の知識と技術が必須です。電気電子工学科では、幅広い産業分野において電気電子工学の知識と技能を活かした、問題解決能力を持つ、若く優れた技術者の養成に努めています。特に、近年の高度化した技術に対応できるように、時代に即した授業カリキュラムを構築し、講義による理論の修得と実験による技能の体得がスムーズに行われるように配慮しています。

電気電子工学の根幹をなす、回路理論や電磁気学などの基礎科目は、低学年から卒業まで学年に応じた内容でステップアップすることにより、理論と応用力を修得する構成となっています。高学年では先端技術に関するテーマを選択科目として開講し、技術者としての素養を涵養できるよう工夫しています。

他の特徴として、講義と連動した実験テーマの充実を図っています。電気回路理論、電磁気現象を確認する基礎実験はもとより、コンピュータを利用した情報処理系の実験も実施します。特に電気系技術者に必要とされる、電子回路の設計技術と解析技術の修得に向け、回路シミュレータを用いた実験も実施します。また、本学科は高電圧関連の実験設備も充実しており、電気主任技術者（電験）認定校です。在学中に所定の課程を修めて卒業すると、実務経験を経て第二種電気主任技術者資格が取得できます。



5年 卒業研究（再生可能エネルギー）



5年 工学実験（電力システムシミュレーション）

●主な授業科目

回路理論、電磁気学、情報理論、電力工学、制御工学、コンピュータ工学、通信工学、電子回路、固体電子工学、電気電子機器、プログラミング、電気電子工学実験、エネルギー変換工学、卒業研究

●教 員

職名	学位	氏名	専門分野
教授	工学修士	江間 敏	電力工学
教授	博士(工学)	佐藤 憲史	光エレクトロニクス
教授	博士(工学)	望月 孔二	電子回路
教授	博士(工学)	高野 明夫	パワーエレクトロニクス・電動機制御
教授	博士(工学)	野毛 悟	超音波エレクトロニクス・電子材料
准教授	博士(工学)	西村 賢治	プラズマ工学
准教授	博士(工学)	嶋 直樹	電波物理
准教授	修士(工学)	眞鍋 保彦	ウェブ情報システム
准教授	博士(工学)	小村 元憲	ナノ物性計測
講師	博士(工学)	大澤 友克	固体物理学
助教	博士(工学)	高矢 昌紀	色彩画像工学
助教	博士(工学)	山之内 亘	モーションコントロール



5年 卒業研究（新機能材料の開発）



2年 創造実験（スピーカの製作）

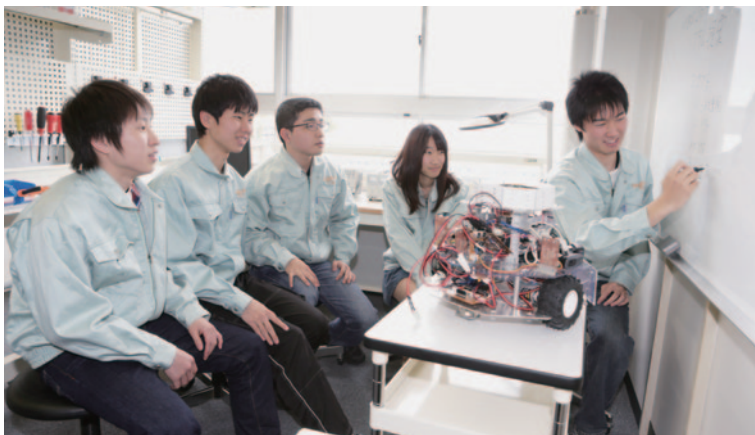
●電子制御工学科の概要

私たちの日常は、さまざまな電子制御技術によって支えられています。例えば自動車、携帯電話、医療機器、これらの用途は全く異なりますが「ハードウェアをコンピュータ制御する」という点で共通しています。

電子制御工学科は、多様な分野に活用できる専門知識と統合技術を備えたエンジニアの養成を目的としています。本学科では、電気電子工学、制御工学、情報工学、機械工学などの分野について基礎から応用までバランスよく学ぶことができます。また、あらゆる技術の基本である数学、物理学、英語の学習指導にも力を注いでいます。

低学年時は、LEGOブロックによるロボット開発、各種プログラミング演習、電子回路の設計、工場実習などを通して、制御に必要な要素技術を身につけます。4学年では、自律型移動ロボットの製作にチームで取り組み、要素技術を適切に統合する力とアイデアを実現する創造力を育成します。5学年の卒業研究では、自ら工学的問題を発見し、培った知識と技術を応用してその解決に挑みます。

本学科の卒業生は、電気・電子系、機械系、情報系など幅広い産業分野で活躍しています。一方で、大学進学はもとより、一層深い専門知識を修得するために沼津高専専攻科への進学を選択し、指導教員のもとでさらに2年間の研究に励み、多数の研究成果を世界に発信しています。



4年 電子機械設計製作(クリエイティブ・ラボでの自律型移動ロボットの開発)



4年 工学実験 (Qメータによる回路素子および誘電損失の測定)



3年 電子機械基礎実習 (LEGOロボットによる競技会)

●主な授業科目

工学数理、電磁気学、計算機工学、電子機械設計・製作、回路理論、システム制御工学、プログラミング言語、工業英語、電気・機械製図、工業力学、電子制御工学実験、卒業研究

●教 員

職名	学位	氏名	専門分野
教授	工学修士	長澤 正氏	通信工学
教授	博士(理学)	牛丸 真司	組み込みシステム・システム制御
教授	工学修士	川上 誠	画像処理・電子回路
教授	博士(工学)	遠山 和之	誘電・絶縁材料
教授	博士(工学)	鄭 萬溶	振動工学・信号処理
准教授	博士(工学)	大庭 勝久	流体工学
講師	博士(工学)	大沼 巧	電動機制御
講師	博士(情報科学)	出川 智啓	数値流体力学・高性能数値計算
助教	修士(工学)	青木 悠祐	ロボット工学・生体医学
助教	博士(工学)	大林 千尋	生体信号処理・ロボット工学



5年 卒業研究 (医療診断支援システムの開発)



● 制御情報工学科の概要

制御情報工学科は、コンピュータを応用した複合機器やシステムの設計、製造、運用等の分野で社会に貢献できる実践的技術者の養成を目的としています。

カリキュラムは、情報工学とシステム・制御工学を重視し、機械工学及び電気・電子工学の関係分野を含んで体系的に編成されています。1～3学年では、C/C++言語の修得を目的としたプログラミング演習とマイコン制御ロボットの開発を目的としたメカトロニクス演習に多くの時間を充て、コンピュータに関する様々な知識や技術を修得します。4学年の創造設計では、コンピュータを応用した具体的なシステムの開発を学生がグループで取り組み、企画から設計・製作、そして検証・考察・成果発表に至るまでの一連の過程を体験します。

高学年では、計測制御、メカトロニクス、コンピュータシミュレーション等の工学実験を各実験室において少人数で体験します。5年間一貫教育の総括としての卒業研究では、教員の個別指導のもとに、具体的な問題の発見と解決を通して自己学習力と創造力を育成します。本学科の卒業生は、情報通信、自動車、ロボット、家電、医療機器等、幅広い産業分野で活躍しています。



4年 PBL（問題解決型授業）形式の創造設計



3年 メカトロニクス演習（マイコン制御の学習）

● 主な授業科目

計算機アーキテクチャ、オペレーティングシステム、プログラミング、離散数学、電磁気学、数値解析、設計工学、計測工学、自動制御、ロボット工学、コンピュータグラフィックス、人工知能、データベースシステム、生産システム、制御情報工学実験、卒業研究

● 教 員

職名	学位	氏名	専門分野
教授	工学修士 技術士(機械部門)	吉野龍太郎	ロボット工学
教授	工学修士	長縄 一智	計測工学
教授	工学博士	長谷 賢治	制御工学
教授	博士(工学)	宮下 真信	数理神経科学
教授	博士(情報工学)	藤尾三紀夫	CG・CAD/CAM
教授	博士(工学)	芹澤 弘秀	電磁波工学
准教授	博士(情報科学)	鈴木 康人	情報論理
准教授	博士(工学)	大久保進也	光情報工学
講師	博士(工学)	山崎 悟史	通信工学
講師	博士(工学)	松本 祐子	数値流体力学
助教	博士(学術)	横山 直幸	人工臓器工学



3年 オブジェクト指向言語C++のプログラミング演習



5年 卒業研究（ロボットハンドの開発）



●物質工学科の概要

物質工学とは人類に役立つ物質を発見したり新規に作り出したり、それらを私たちの生活に活用する手法を示す学問です。

本学科では化学又は生物化学面での創造性の開発、自発的態度の育成及び実践的科学技术を習得し、社会に貢献できる実践的技術者の育成を目的としています。

カリキュラムは、物質の組成、構造及び変化について理解を深めるべく、分析化学、微生物学、無機化学、有機化学、物理化学、化学工学、生物化学の順に講義と実験によって物質工学の基礎を学び、更に4年生からは「材料化学」、「生物工学」の2コースに分かれてそれぞれに必要な工学技術を学びます。「材料化学」コースでは無機材料や高分子・有機材料の合成、物性測定及び分析など、「生物工学」コースでは分子生物学、酵素、細胞及び遺伝子などを中心に学びます。

英語学習については、世界に発信できるコミュニケーション能力を高めるため、一般英語だけではなく、4・5年生に専門教員が科学英語を教育し、専門英語の習得を目指します。総仕上げとして5年生に卒業研究を行います。以上により、世界の化学工業、医薬品工業及び食品工業の分野で研究開発や生産技術者として活躍できる人材の養成を目指しています。



5年 卒業研究（機能材料の細孔分布測定）



5年 卒業研究（遺伝子の蛍光シグナル検出）

●主な授業科目

物質工学入門、科学英語、物理化学、無機化学、有機化学、化学工学、生物化学、微生物学、培養工学、分子生物学、細胞工学、酵素工学、機器分析、反応工学、遺伝子工学、分析化学、高分子科学、安全工学、環境工学、物質工学実験、卒業研究

●教 員

職名	学位	氏名	専門分野
教授	工学博士	山田 祐一郎	化学工学・電子材料工学
教授	博士(工学)	押川 達夫	有機合成化学・グリーンケミストリー
教授	博士(工学)	蓮實 文彦	微生物学・培養工学
教授	薬学博士	芳野 恭士	生物系薬学・食品科学
教授	博士(薬学)	後藤 孝信	酵素化学・水産化学
准教授	Ph.D	青山 陽子	高分子化学・化学教育
准教授	博士(工学)	稲津 晃司	触媒化学・環境化学
准教授	博士(理学)	大川 政志	無機化学
准教授	博士(工学)	竹口 昌之	生物化学工学・微生物工学
准教授	博士(農学)	古川 一実	遺伝子工学
准教授	博士(工学)	藁科 知之	分析化学
講師	博士(学術)	山根 説子	生体材料工学



4年 化学工学実験（アルコールの蒸留）



2年 分析化学実験（中和滴定）

地域共同テクノセンター

Cooperative Research and Development Center



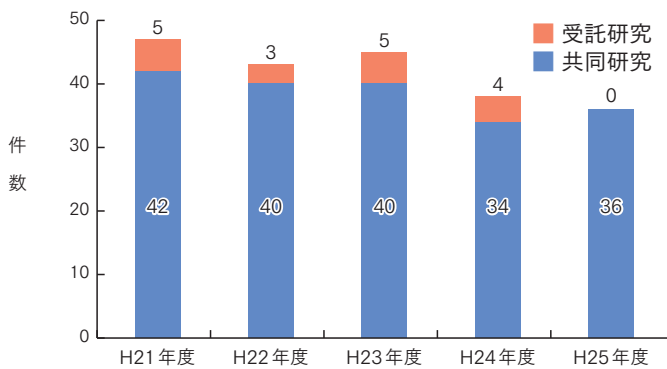
地域共同テクノセンターは、総合技術開発能力のある学生の育成、地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進を通して静岡県東部の地域産業の振興に寄与することを目的として、次の主な業務を行っています。

- 総合技術開発能力のある学生の育成
- 地域産業界等との共同研究、受託研究及び受託試験の推進
- 地域産業界からの技術相談の対応、テクノフォーラム等の実施
- 社会人を対象としたリフレッシュ教育及び公開講座等の実施

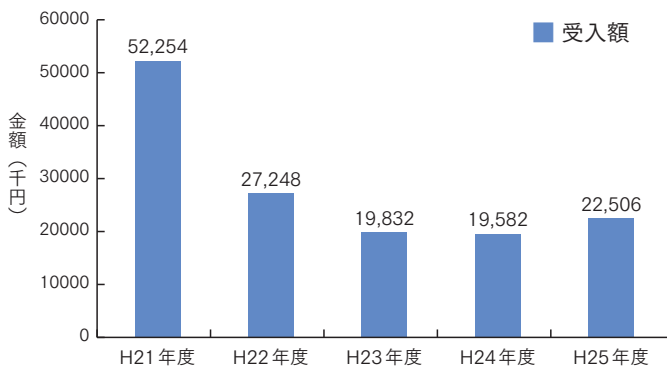
本センターは、特に、地域産業界等との共同研究、受託研究等のテーマに関する具体的な実験・試験・解析を、最新の設備と研究環境のもとで実施できる体制に整備し、産学連携による地域貢献を一層推進することを目的としています。また、本校には、機械、電気電子、制御、情報、化学、生物化学等、多くの専門分野に精通した教員が在職しているので、企業の方々が抱える技術的な問題点・疑問点に対して相談に応じる技術相談の体制も整えています。技術相談、共同研究、受託研究の受入れ件数は全国高専の中で、常にトップクラスを維持しています。

本センターの上記のような人的・物的資源は、地域産業界の技術開発・製品開発を支援するために用意されています。

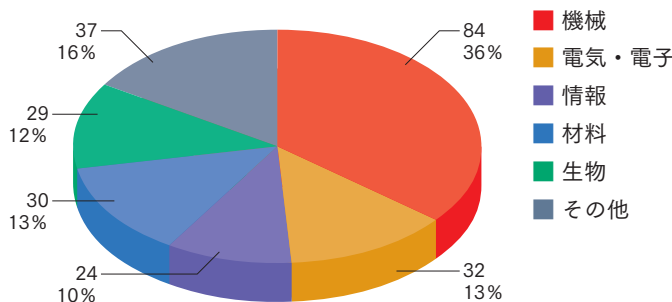
共同研究・受託研究・技術相談の実績



共同研究・受託研究 受入件数 (H21年4月～H26年3月)



共同研究・受託研究 受入金額 (H21年4月～H26年3月)



分野別科学技術相談件数と比率 (H21年4月～H26年3月)



3Dプリンタ (センター 3F多目的研究室)



核磁気共鳴装置 (センター 2F共同研究室)



高精度5軸加工システム (センター 1F共同研究室)

教育研究支援センターには最新鋭の教育・研究設備が設置され、幅広い産業分野で活躍する実践的・創造的技術者の基本となる、ものづくり教育を行っています。また、教育研究支援センターは、専攻科の医療福祉機器開発工学コースおよび本科の学際教育と密接に関係した教育・研究に利用されています。センターでは技術室の技術職員が実験・実習教育を支援しています。

センターにおける教育・研究活動は次のとおりです。

- 学生への体験的ものづくり実習教育
- 学際分野、特に医療福祉機器開発分野に関する実験・実習
- 卒業研究、専攻科研究および教員研究の実験装置の製作等
- 地域共同テクノセンターと連携した近隣企業等との共同研究

主要設備

医用機器開発分野

医用機器開発実験室Ⅰ

自動解析心電計、超音波診断装置、体外循環回路、筋電図・誘発電位検査装置、平板試料ゼータ電位測定システム、エリブソメーター（薄膜計）

医用機器開発実験室Ⅱ

重心動揺計システム、モーションキャプチャーシステム、病室設備機器、医療機器教材

計測・分析分野

精密計測実験室

レーザーラマン分光装置、走査型電子顕微鏡、高精度CNC三次元測定機、万能投影機

ものづくり教育分野

ものづくり創造工房エリア

レーザー加工機、溶接設備、手仕上げ加工設備、プレス加工機（2台）

鋳鍛造エリア

鋳造設備、鍛造設備

工作機械室

マシニングセンタ、CNC旋盤、ワイヤ放電加工機、旋盤（11台）、フライス盤（2台）、平面研削盤、円筒研削盤、横中ぐり盤、ボール盤（3台）



超音波診断装置を用いた研究



三次元測定機による計測



レーザー加工機による実験装置製作



エンジンの分解・組み立て実習

南棟

北棟

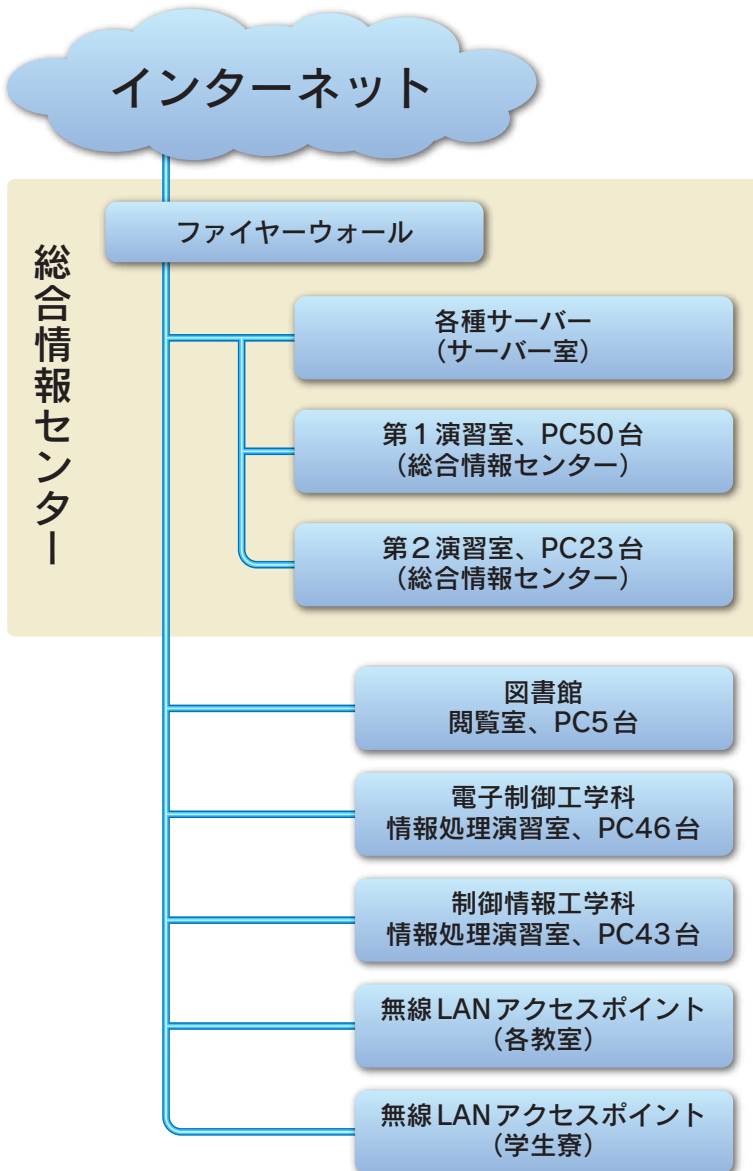
総合情報センター Information Technology Center

総合情報センターは本校の情報処理教育と情報システムに関わる様々な業務を行っています。その運営は、高い情報技術を有する数名の教員と常駐の技術職員によって行われています。

- 教育用計算機システムの設計・管理運用
- 学内情報基盤の設計・管理運用
- 学内情報資源の有効活用に関わる企画・技術支援
- 情報リテラシー教育・情報処理教育

施設内には50台及び23台のPCを配置した2つの情報処理演習室があります。PCをはじめとする教育用コンピュータシステムは定期的に更新が行われ、ストレスのないハードウェア環境と、教育・研究に必要なソフトウェア環境が整備されています。スキャナや決められた範囲で自由に打ち出せるプリンタなども整備されています。これらの施設・設備は、全学共通のリテラシー教育や、各学科のプログラミング演習などの授業に活用されています。また、情報処理教育の一環として学内プログラミングコンテストや各種講座を開催しています。センターは常時開館しており、レポート作成やe-Learningによる自主学习・研究等にも活用されています。

図書館及び電子制御工学科棟と制御情報工学科棟の情報処理演習室にも、本センターの演習室と同一のPC利用環境が整備されています。また、教室や寮内には無線LANのアクセスポイントがあり、定められたルールの中で自分のPCをネットワークに接続することができます。



学内LANの構成



1年 第1演習室における情報リテラシーの講義



第2演習室



総合情報センター内で印刷する

図書館運営

図書館は学校全体の学習センターとしての役割を果たしています。図書館には教育及び研究に必要な情報資料を中心に授業に欠かせない参考図書や豊かな情操を養うための教養書や美術書等が開架書架に並べられています。また、学術専門雑誌及び一般雑誌のほか新聞も自由に閲覧できるようになっています。

情報社会に即応して図書館業務システムを導入し、貸出・返却業務の電算化はもとよりパソコンによる図書検索、蔵書の管理を行っています。パソコンコーナーを設置し、電子情報も閲覧できるようになっています。

利用者サービス

閲覧室の一部には学習コーナーが設けられているので学生は課題研究をしています。英語教育における多読図書の拡充にも力を入れており、英文書籍約2,500冊が英語授業で活用されています。公開講座の影響で外部利用者による貸し出しが増えています。TOEIC等の資格コーナーの貸出も増加しています。

読書の推進

朝読書を実施して朝の落ち着いた時間に本を読んで読書の楽しさと心の豊かさを生み出しています。朝読書の書籍推薦を図書館で行っています。

夏休みの読書を推進しており図書室運営書委員会では校内読書感想文コンクールを開催しています。多くの応募作品の中から優秀作品を表彰しています。

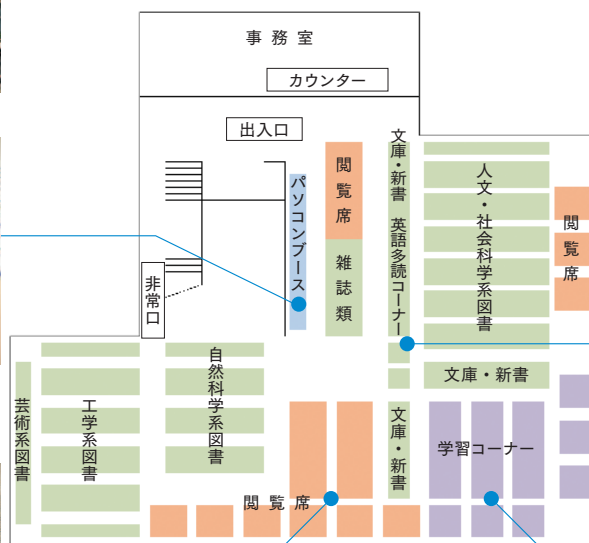
ハイブリッド図書館構想として電子ジャーナル等の導入や新カリキュラム対応の資料等を積極的に整備しています。

- 閲覧貸出法：開架式
- 閲覧定員：100座席
- 検索用端末：8台（内、蔵書検索用2台）

蔵書

平成 26 年 3 月 31 日現在

区分	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	文庫等	合計
和漢書	4,894	2,629	5,169	4,476	16,266	18,024	456	2,245	3,542	7,356	15,507	80,564
洋書	494	452	366	283	9,999	3,282	10	168	3,504	732	65	19,355
計	5,388	3,081	5,535	4,759	26,265	21,306	466	2,413	7,046	8,088	15,572	99,919
割合 (%)	5.4%	3.1%	5.5%	4.8%	26.3%	21.3%	0.5%	2.4%	7.1%	8.1%	15.6%	100%



学生寮 Student Dormitory

本校は、全人教育の一環として学生の修学に便宜を供与し、教育目標達成に資するため低学年全寮制を実施し、原則として1・2学年は全員入寮することになります。

また、3学年以上の入寮希望者は、選考を経て主に指導寮生として入寮できます。

寮監及び寮務担当教員と共に、全教員が輪番で宿直に当たっています。

寮は学校敷地の北東に位置し、北寮ゾーンと南寮ゾーンに7棟で構成されており、北寮ゾーンは、翔峰寮・栄峰寮・光峰寮、南寮ゾーンは、明峰寮(女子寮)・優峰寮・清峰寮・秀峰寮となっています。上級生寮の翔峰寮は全室が個室であり、他の6棟は、1人部屋と2人部屋になっています。寮には寮生が組織する寮生会があり、寮長・副寮長・棟長等指導寮生を中心に、毎日の学習はもとより、規律正しい共同生活、年間行事等の企画・立案がなされ、日々の有意義な寮生活が営まれています。例えば、新入生歓迎親睦会・夏祭り・クリスマスパーティー等の他に、地域住民との交流の一貫として、共に楽しむ寮祭の開催や地域住民主催の清掃等への参加などです。

● 学生寮現員

平成 26 年 5 月 1 日現在

寮名	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科	合計	備考
清峰寮	58	24	8	5	0	0	95	
秀峰寮	34	14	9	0	1	0	58	
優峰寮	0	19	13	10	6	0	48	
栄峰寮	44	25	11	14	7	0	101	
光峰寮	40	24	12	3	1	0	80	
翔峰寮	1	23	33	25	15	0	97	
明峰寮	37	23	10	5	0	0	75	女子寮
計	214	152	96	62	30	0	554	(留学生6名を含む)



翔峰寮



南寮風景



談話室風景



居室風景



マテカ (寮生会主催の勉強会)



食堂風景

木曜日



寮生会本部役員(寮長、副寮長を含む30名弱)と寮務担当教員(10数名)は隔週木曜日放課後「木曜日」と呼ばれる合同会議を開催しています。そこでは寮生会から事前に提出された各種企画、規則、報告などについて可否、意見などを教員から寮生会に伝えます。また会議終了後「棟顧問」教員と棟長(棟を統括する役員)との話し合いが行われ、より細かい情報交換、助言などがなされます。

このように寮生会と寮務担当教員との連携により規律正しい寮運営が日々行われています。沼津高専学生寮のこのシステムは非常に注目され、他高専から視察、体験入寮の申込みが毎年多くあります。



親睦会



防災訓練

学生支援ゾーン

学生支援体制の強化・充実を図るため、学生課の並びに、保健室・カウンセリングルーム・学生生活支援室・学生キャリア支援室を統合配置しています。

学生生活支援室

円滑で充実した高専生活を送れるように、学生生活支援室を設置しています。放課後に、支援室の教員が待機しており、学業に関すること、クラブ活動のこと、健康や友人関係のことなどについて、相談に応じています。



保健室

保健室には看護師が常駐しており、学生が心身ともに安全で安心な学生生活を送れるように、健康診断や健康相談、体調不良者の休養や負傷時の応急処置などを行っています。



カウンセリングルーム

担任や親に相談しづらい悩みなど、学生の抱える様々な問題に対応するために、時間を設定して、専門のカウンセラー（週2回）と精神科医（月1回）が相談を受け付けています。



キャリア支援室

学生の就業意識を高め、就職支援をするために、キャリア形成に関する講演や模擬面接、女子学生に対するメイクアップ講習などを行っています。



【相談BOX】

校内の3か所に設置。「いきなり人と会って相談というのはちょっと…」という学生にも対応しています。



学生課

学生課は、教務・入試・学生・寮務・図書との5つの係があり、学生生活に直接関係のある業務を取り扱っています。



尚友会館

尚友会館は学生の福利厚生を目的とした施設です。1階には学生食堂・売店・理容室があり、2階には学生会室と学生共用室があります。また、ロビーは、休憩時間の学生の憩いの場となっています。



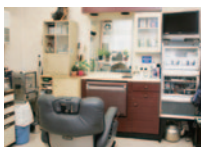
尚友会館



学生会室



売店



理容室



学生共用室



ロビー



学生食堂

メニュー例	
うどん	¥300
そば	¥300
カレー	¥300
A・B定食	¥410
ラーメン	¥370

学生データ

Student information

● 定員及び現員

平成 26 年 4 月 1 日現在

■学科	■定員	■現員					■合計
		1年	2年	3年	4年	5年	
機械工学科	40	45(4)	39(4)	41(4)	36(2)	39(3)	200(17)
電気電子工学科	40	43(6)	44(2)	41(5)	44(3)	40(2)	212(18)
電子制御工学科	40	43(3)	41(6)	42(5)	40(4)	37(2)	203(20)
制御情報工学科	40	42(5)	42(7)	45(11)	40(4)	41(3)	210(30)
物質工学科	40	43(19)	42(14)	47(14)	44(16)	40(12)	216(75)
計	200	216(37)	208(33)	216(39)	204(29)	197(22)	1,041(160)

() 内は女子で内数

平成 26 年 4 月 1 日現在

■専攻科	■定員	■現員		■合計
		1年	2年	
総合システム工学専攻	24			
（環境エネルギー工学コース）		5(0)		5(0)
（新機能材料工学コース）		9(5)		9(5)
（医療福祉機器開発工学コース）		10(1)		10(1)
機械・電気システム工学専攻	8		8(1)	8(1)
制御・情報システム工学専攻	8	1(0)	8(0)	9(0)
応用物質工学専攻	4		4(1)	4(1)
計	44	25(6)	20(2)	45(8)

() 内は女子で内数

● 入学志願者状況

平成 26 年 4 月 1 日現在

■学科	平成 25 年度				平成 26 年度			
	募集人員	志願者	入学者	倍率	募集人員	志願者	入学者	倍率
機械工学科	40(20)	61(15)	42(20)	1.5(0.8)	40(20)	65(31)	42(20)	1.6(1.6)
電気電子工学科	40(20)	78(30)	42(20)	2.0(1.5)	40(20)	36(16)	42(20)	0.9(0.8)
電子制御工学科	40(20)	76(39)	41(20)	1.9(2.0)	40(20)	76(37)	42(20)	1.9(1.9)
制御情報工学科	40(20)	72(45)	42(20)	1.8(2.3)	40(20)	86(46)	42(20)	2.2(2.3)
物質工学科	40(20)	76(43)	43(20)	1.9(2.2)	40(20)	89(66)	43(20)	2.2(3.3)
計	200(100)	363(172)	210(100)	1.8(1.7)	200(100)	352(196)	211(100)	1.8(2.0)

() 内は推薦選抜による内数

平成 26 年 4 月 1 日現在

■専攻科	平成 25 年度		
	募集人員	志願者	入学者
総合システム工学専攻			
機械・電気システム工学専攻	8	28	8
制御・情報システム工学専攻	8	23	9
応用物質工学専攻	4	9	4
計	20	60	21

平成 26 年 4 月 1 日現在

■専攻科	平成 26 年度		
	募集人員	志願者	入学者
総合システム工学専攻			
環境エネルギー工学コース		22	5
新機能材料工学コース	24	13	9
医療福祉機器開発工学コース		24	10
計	24	59	24

平成26年度より1専攻3コースに改編

● 外国人留学生

平成 26 年 4 月 1 日現在

■学科	機械工学科			電気電子工学科			電子制御工学科			制御情報工学科			物質工学科			合計
	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	3	4	5	
マレーシア	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
モンゴル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1
インドネシア	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1
ラオス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1
計	1	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	6

● 出身地別学生数

平成 26 年 4 月 1 日現在

■出身地	■学生数
静岡県	949
神奈川県	79
山梨県	3
東京都	1
愛知県	1
滋賀県	1
福岡県	1
マレーシア	3
インドネシア	1
モンゴル	1
ラオス	1
計	1,041

専攻科は除く

● 静岡県内都市別学生数

平成 26 年 4 月 1 日現在

■東部地区		■中部地区		■西部地区	
■出身地	■学生数	■出身地	■学生数	■出身地	■学生数
沼津市	157	静岡市	73	浜松市	82
富士市	125	島田市	19	磐田市	22
駿東郡	88	掛川市	18	湖西市	7
三島市	75	焼津市	16	袋井市	2
御殿場市	47	藤枝市	15	周智郡	1
富士宮市	43	牧之原市	7		
裾野市	32	菊川市	2		
伊東市	27	榛原郡	1		
田方郡	25				
伊豆の国市	20				
下田市	14				
伊豆市	14				
熱海市	9				
賀茂郡	8				
計	684	計	151	計	114

専攻科は除く

●卒業生の編入学状況

※最近5年間

■大学名	■入学年度					
	平成	22	23	24	25	26
●国立						
北海道大学	1	—	3	1	—	—
秋田大学	1	—	—	—	—	1
山形大学	1	—	—	—	—	1
東北大学	3	1	2	—	—	3
福島大学	—	3	—	—	—	—
茨城大学	—	—	1	—	—	—
筑波大学	4	5	3	5	3	3
千葉大学	1	—	2	7	4	—
東京大学	1	1	—	—	—	—
東京農工大学	1	4	5	5	1	—
東京工業大学	3	2	3	4	4	—
東京海洋大学	1	2	1	1	—	—
電気通信大学	2	—	3	1	1	—
横浜国立大学	2	1	1	2	2	—
新潟大学	1	2	—	—	2	—
長岡技術科学大学	3	7	5	3	4	—
富山大学	—	—	—	—	1	—
金沢大学	1	2	2	1	3	—
福井大学	—	—	3	3	—	—
山梨大学	—	—	—	—	2	—
信州大学	—	—	4	3	3	—
静岡大学	2	4	3	3	5	—
名古屋大学	5	2	4	2	1	—
名古屋工業大学	2	2	—	1	2	—
豊橋技術科学大学	22	17	16	18	15	—
三重大学	—	3	—	—	—	—
京都工芸繊維大学	1	1	2	—	1	—
大阪大学	1	1	1	5	3	—
神戸大学	—	—	—	—	1	—
奈良女子大学	—	—	1	—	1	—
岡山大学	1	—	—	—	—	—
広島大学	1	2	3	—	1	—
徳島大学	—	1	—	—	—	—
愛媛大学	—	—	—	1	—	—
高知大学	—	—	3	1	1	—
九州大学	2	—	—	—	1	—
九州工業大学	—	—	1	—	—	—
大分大学	—	1	1	—	—	—
琉球大学	2	—	—	—	—	—
●公立						
首都大学東京	3	—	2	1	—	—
石川県立大学	1	—	—	—	—	—
静岡県立大学	—	1	—	—	—	—
大阪府立大学	—	—	1	—	—	—
●私立						
東海大学	—	—	—	1	—	—
東京工芸大学	—	1	—	1	—	—
東京国際大学	—	—	1	—	—	—
東京電機大学	—	1	—	—	—	—
東京理科大学	—	—	—	—	2	—
早稲田大学	—	—	—	—	1	—
日本大学	—	—	—	1	—	—
神奈川大学	1	—	—	—	—	—
中部大学	1	—	—	—	—	—
豊田工業大学	—	—	—	1	—	—
立命館大学	2	1	—	1	1	—
■合計	73	68	77	73	71	—

●平成25年度卒業生の進路状況

■区分	M	E	D	S	C	■合計
卒業生数	33	40	42	39	48	202
就職者数	22	26	21	13	22	104
編入学者数	9	14	10	24	14	71
専攻科入学者数	2	—	11	—	11	24
その他	—	—	—	2	1	3
求人会社数	469	492	422	343	274	2,000
●就職者内訳						
産業別						
建設	—	1	1	—	—	2
食品	2	4	1	2	2	11
繊維	—	1	—	—	—	1
化学	6	4	—	1	20	31
鉄鋼	—	—	—	—	—	—
非鉄金属	—	—	—	—	—	—
金属製品	1	—	—	—	—	1
一般機械器具	7	—	3	2	—	12
電気機械器具	—	7	2	1	—	10
輸送機械器具	1	—	3	—	—	4
精密機械器具	1	—	—	1	—	2
その他製造	3	3	3	1	—	10
電気・ガス	—	3	—	—	—	3
運輸・通信	—	2	6	—	—	8
卸売・小売	1	—	—	—	—	1
サービス業	—	—	2	5	—	7
上記その他	—	1	—	—	—	1
地区別						
京浜地区	8	14	10	10	10	52
静岡県内	8	9	7	3	11	38
京阪神地区	—	—	1	—	1	2
その他	6	3	3	—	—	12

M：機械工学科 E：電気電子工学科 D：電子制御工学科 S：制御情報工学科 C：物質工学科

●平成25年度卒業生就職先一覧

機械工学科
DMG森精機株式会社/株式会社IHI/アステラス ファーマ テック株式会社/出光興産株式会社/オーエスジー株式会社/花王株式会社/興和株式会社/株式会社小松製作所/株式会社三協/サンワテクノス株式会社/東燃化学合同会社/東プレ株式会社/日立建機株式会社/富士重工株式会社/富士乳業株式会社/プリチストンサイクル株式会社/マルスン株式会社/三浦工業株式会社/株式会社ヤクルト本社/レンゴー株式会社
電気電子工学科
Meiji Seika ファルマ株式会社/伊豆技研工業株式会社/株式会社エヌ・ティ・ティ エムイー/キヤノン株式会社/興和株式会社/サッポロビール株式会社/株式会社資生堂/中部電力株式会社/東海旅客鉄道株式会社/東京コンピュータサービス株式会社/東京電力株式会社/株式会社東芝/東洋インキSCホールディングス株式会社/日本たばこ産業株式会社/沼津市役所/パナソニックシステムネットワークス株式会社/富士通株式会社/富士乳業株式会社/株式会社前島電気工業社/丸富製紙株式会社/ムラテック CCS 株式会社/株式会社明電舎/株式会社ヤクルト本社/ユニチカ株式会社/株式会社吉野工業所
電子制御工学科
CTCテクノロジーズ株式会社/株式会社NTTネオメイト/株式会社NTTぷらら/THKインテックス株式会社/株式会社小松製作所/三明電子産業株式会社/株式会社東海ソフトウェア/東芝機械株式会社/東芝プラントシステム株式会社/東芝メディカルシステムズ株式会社/トッパン・フォームズ・オペレーション株式会社/新倉工業株式会社/ニフティ株式会社/浜松ホトニクス株式会社/日立アプライアンス株式会社/株式会社日立パワーソリューションズ/富士重工株式会社/富士乳業株式会社/株式会社三ツ和/株式会社安川電機/ヤマハモーターエンジニアリング株式会社
制御情報工学科
株式会社Speee/伊豆技研工業株式会社/出光興産株式会社/サイバーエアリサーチ株式会社/サントリープロダクツ株式会社/セコムトラストシステムズ株式会社/株式会社大都技研/株式会社中央エンジニアリング/東芝機械株式会社/日本オーチス・エレベータ株式会社/日本たばこ産業株式会社/株式会社日立情報通信エンジニアリング/株式会社フォーラムエンジニアリング
物質工学科
KHネオケム株式会社/旭化成株式会社/イハラニッケイ化学工業株式会社/小野薬品工業株式会社/フジヤ工場/オリンパステルモバイオマテリアル株式会社 三島事業所/花王株式会社 川崎工場/クノール食品株式会社/興和株式会社 富士工場/ジェイカムアグリ株式会社 富士工場/第一共ケミカルファーマ株式会社/第一共プロファーマ株式会社/株式会社タイカ/ダイキン工業株式会社/株式会社タウンス/株式会社ツムラ/東燃化学合同会社/東燃セネラル石油株式会社/株式会社日幸製作所/日本マイクロバイオファーマ株式会社 磐田工場/町田食品株式会社/ユニ・チャームプロダクツ株式会社 静岡工場/株式会社リコー

進路（専攻科）

Courses after Graduation (Advanced Engineering Course)

●平成25年度修了生の進路状況

■区分	ME	DS	CB	■合計
修了生数	10	8	5	23
就職者数	8	3	4	15
大学院入学者数	2	5	1	8
その他	—	—	—	—
求人会社数	187	190	86	463

●就職者内訳

産業別	ME	DS	CB	合計
建設	—	—	—	—
食品	—	—	2	2
繊維	—	—	—	—
化学	1	—	—	1
鉄鋼	—	—	—	—
非鉄金属	—	—	—	—
金属製品	—	—	—	—
一般機械器具	1	1	—	2
電気機械器具	2	—	—	2
輸送機械器具	2	—	—	2
精密機械器具	—	—	—	—
その他製造	1	1	1	3
電気・ガス	—	—	—	—
運輸・通信	—	—	—	—
卸売・小売	—	—	—	—
サービス業	1	—	—	1
上記・その他	—	1	1	2

地区別

地区別	ME	DS	CB	合計
京浜地区	6	1	2	9
静岡県内	1	1	2	4
京阪神地区	—	—	—	—
その他	1	1	—	2

ME：機械・電気システム工学専攻

DS：制御・情報システム工学専攻

CB：応用物質工学専攻

●平成25年度修了生就職先一覧

機械・電気システム工学専攻

NOK株式会社／株式会社小松製作所
東海旅客鉄道株式会社／株式会社東京ウエルズ
トヨタ自動車東日本株式会社／富士鋼業株式会社
富士電機株式会社／横浜ゴム株式会社

制御・情報システム工学専攻

TOTO株式会社／株式会社アウトソーシングテクノロジー
三明機株式会社

応用物質工学専攻

御殿場市役所／株式会社三協／株式会社ツムラ
日本食品化工株式会社

●修了生の進学状況

※最近5年間

■大学名	■入学年度					
	平成	22	23	24	25	26
●国立						
筑波大学大学院	—	—	—	—	—	1
東京大学大学院	1	—	—	—	1	—
東京医科歯科大学大学院	—	—	—	—	—	1
東京工業大学大学院	3	3	5	2	3	—
東京農工大学大学院	—	—	1	—	—	—
電気通信大学大学院	—	1	—	—	—	—
横浜国立大学大学院	—	1	1	—	—	—
静岡大学大学院	—	—	1	—	—	—
豊橋技術科学大学大学院	1	—	2	2	—	—
名古屋大学大学院	—	—	—	—	1	2
北陸先端科学技術大学院	1	—	—	—	—	1
奈良先端科学技術大学院	2	5	5	1	—	—
●公立						
静岡県立大学大学院	1	—	—	—	—	—
●私立						
立命館大学大学院	—	—	—	—	1	—
■合計	9	10	15	8	8	8



平成25年度 卒業証書・修了証書 授与式

●平成25年度 収入・支出決算額

収入		(単位：千円)
■区分	決算額	
運営費交付金	107,028	
施設整備費	592,563	
施設課分	110,770	
平成24年度補正予算 設備分	481,793	
自己収入	307,077	
授業料	248,08	
入学料	20,651	
検定料	7,219	
雑収入	31,120	
産学連携等研究収入	24,108	
受託研究	0	
共同研究	21,288	
間接経費	2,820	
寄付金収入	13,046	
その他補助金	202,086	
科学技術振興調整費	42,804	
平成24年度補正予算 設備整備分	157,649	
その他	1,633	
合 計	1,245,908	

支出		(単位：千円)
■区分	決算額	
業務費	429,835	
教育研究経費(教育研究支援経費含む)	308,432	
一般管理費	121,403	
施設整備費	592,563	
施設課分	110,770	
平成24年度補正予算 設備分	481,793	
産学連携等研究経費	21,118	
受託研究	0	
共同研究	21,118	
受託事業	0	
間接経費	0	
寄付金事業費	27,423	
その他補助金	202,086	
科学技術振興調整費	42,804	
平成24年度補正予算 設備整備分	157,649	
その他	1,633	
合 計	1,273,025	

●建物配置図

■No. ■建物名称	㎡	■No. ■建物名称	㎡
1 管理棟(共通棟、E科棟含む)	5,772	17 第1体育館	1,027
2 共通棟		18 第2体育館	880
3 専攻科棟	1,183	19 武道館	331
4 第1講義棟	1,560	20 尚友会館(学生食堂等)	720
5 第2講義棟		21 守衛所	26
6 機械工学科・制御情報工学科棟	2,251	22 学生寮管理棟・浴室	252
7 電気電子工学科棟		23 学生寮(優峰寮)	869
8 電子制御工学科棟	2,180	24 学生寮(秀峰寮)	869
9 制御情報工学科実験棟	780	25 学生寮(清峰寮)	1,380
10 物質工学科棟(第2講義棟含む)	2,337	26 学生寮(明峰寮)	1,315
11 物質工学科生物工学実験棟	514	27 学生寮(光峰寮)	1,276
12 教育研究支援センター 南棟	759	28 学生寮(栄峰寮)	1,754
13 教育研究支援センター 北棟	603	29 学生寮(翔峰寮)	1,752
14 図書館(総合情報センター含む)	2,089	30 学生寮食堂(合宿施設含む)	862
15 総合情報センター		31 合宿施設	
16 地域共同テクノセンター	415		





Access Map

交通案内

- JR三島駅北口よりタクシーにて約10分
- JR沼津駅南口より富士急シティバス
沼津高専行乗車
- JR下土狩駅下車⇒徒歩約20分
- 東名高速道路沼津インターチェンジより
車で約5分
- 新東名高速道路長泉沼津インターチェンジより
車で約5分

2014 沼津高専 概要

編集発行

●2014年6月 ●独立行政法人国立高等専門学校機構 沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055 (921) 2700 FAX 055 (926) 5700